

実験でエスカレーターに巻き込まれた樹脂製サンダル
— 独立行政法人・製品評価技術基盤機構提供



甲までザックリ…

樹脂製サンダル巻き込み実験

軟らかな樹脂製のサンダルを履き、エスカレーターに足を巻き込まれる事故が昨年65件起きた問題で、独立行政法人・製品評価技術基盤機構(NITE)は18日、スポンジのような発泡状の樹脂素材に問題があるとする調査結果を発表した。樹

脂製サンダルによる事故発生率は5割だった。経済産業省はサンダルを輸入・販売している「クロックスエアジア フライベート リミテッド」日本支社に製品の改良を要請。類似品を製造している業者約10社も今後指導する。

問題の樹脂製サンダルは、足の甲が覆われているタイプ。NITEは米国メーカー「クロックス」が製造した樹脂製サンダルと類似品の計7製品で延べ2640回、甲が覆われていないサンダルや運動靴、長靴で各1200回実証実験をした。その結果、エスカレーターに巻き込まれたのは樹脂製サンダルが134回(発生率5%)、長靴が2回(同0.2%)、運動靴と甲が覆われていないサンダルはゼロだった。ま

訂正 18日朝刊26面「日産がリコール」の記事で、対象車種が「デュリアス」とあるのは「デュアリス」の誤りでした。

た、上りでステップと側面のステンレス部分の間に引き込まれるケースが大半だった。

経産省は、問題のサンダルは昨年約500万、600万足(うちクロックス製は約390万足)が販売された

とみており、消費者に注意を呼びかけている。【奥山智己】

軟らかい素材に難 経産省が改良要請へ

相次いだ樹脂製サンダル事故

軟らかな樹脂製のサンダルを履き、足をエスカレーターに巻き込まれる事故が相次いだ問題で、独立行政法人・製品評価技術基盤機構(NITE)が事故原因に関する調査結果をまとめた。製品の素材に問題があるとして、潤滑剤の不使用方法などエスカレーターのメンテナンス上の課題も指摘している。経済産業省は同種のサンダルを製造・輸入している業者数社に製品の改良を要請する方針。【奥山智己】



エスカレーターでの事故が多発している樹脂製サンダル

として、軟らかい▽滑りにくい▽薄い▽伸びやすい—など樹脂製サンダルの特徴を挙げ

ステップと側面の間に左足を挟み、中指骨折の重傷を負った。

NITEは米国メーカー「クロックス」が

製造した樹脂製サンダルと類似品の計7製品は昨夏以降、小学生以下の子供を中心に66件起きていた。このうち、JR東京駅構内で昨年8月に起きた事故で、死亡したのは樹脂製サンダルだけだった。原因

ている。一方、同じ樹脂製でも、エスカレーターのステップや側面のステンレス部分に潤滑剤が塗られていると、巻き込まれないことが分かった。潤滑剤については、日本エレベーター協会がメンテナンスの際に塗布するよう指針を出しているが、強制力はない。